

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	瀬戸内市立美和小学校	実践者名	尾田 結希
教科等	国語科	学年	第1学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	文章の中における主語・述語の関係に気付いたり、事柄の順序を考えて内容の大部分を捉えたりできる。		
単元・内容等	「くちばし」(全8時間) 説明的文章「くちばし」を読み、文の中の主語・述語の関係や「問い」「答え」があることに気づき、内容の大部分を捉える。		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	端末は生活科の時間にアサガオや学校の中の物を撮影する際に活用している。		
活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
【使用アプリ】 ロイロノート(写真撮影・トリミング・録音)・スカイメニュー			
【単元の概要】			
○第1時 教師がロイロノートで作成した「動物クイズ」をすることで、児童が「『くちばし』を学習して動物クイズをつくろう」という課題をもてるようにする。			
○第2～6時 3種類のくちばしの文章について、「問い」「答え」があること、答えの後に詳しい説明が書かれていることを確かめる。本文と写真を対応させ、写真にも「問い」と「答え」のものがあることに気づくことができるようにする。			
○第7・8時 2～6時で学習したことを生かし、自分が選んだ動物の写真をロイロノートで撮影し、動物クイズを作る。全体でクイズを出し合う前に、ロイロノートの録音機能を活用し、写真に合う文章を言う練習を繰り返し行う。			
○単元全体をとおして 毎時間の学習の振り返りをその日の板書の写真カードに録音する。録音したものを次の時間の最初に聞き、めあてにつなげた。単元の最後に学習を振り返り、理解した内容や自身の成長を実感させる。			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
「動物クイズをつくろう」という課題を設定したことで、目的意識をもって、「くちばし」の学習や写真撮影を行うことができた。 毎時間振り返りを録音したことは、書くことが難しい児童にとって、自分の考えや思いを記録する手助けとなった。また、録音する中で考えが整理できていたと感じた。		(児童の様子) ・録音した振り返りを聞き直し、本時の学習内容を自分なりに整理する姿が見られた。 ・全体でのクイズ大会では、友達の答えに対して、「正解です」「ちがいます」などの反応が自然と出てきた。 ・生活科「学校探検」の各教室についての発表を行う際、児童から、写真を示して「これは何でしょう。」という発表の仕方が提案された。	

